

小川谷廊下

日程：2010年8月21日（土）

メンバー：L白土、斎藤、劔持（記）

連日の猛暑で干からび気味なので、涼しい沢が恋しい。小川谷廊下は写真でしか見たことないけれど、一度行ってみたいと思っていた。それに、盛夏の小川谷廊下は最高、とのことで出かけることに。

6時に家に迎えに来てもらい、穴ノ平橋に車を停める。橋から少し戻ったあたりから沢へ降りる。堰堤には鉄ハシゴがついて、簡単に小川谷まで下りられる。

さっそくF1が登場。ロープを出し、右から。F20Sはとても大きな岩。白土さんが試みるも、水流に阻まれて厳しそう。ここは斎藤さんが突破し、お助けひもで上から引っ張ってもらう。



F3 2段2+5mは左から巻く。

ワナバ沢を右に見てしばらくはゴーロ。そのあとゴルジュとなる。最初の6m滝には右側に残置が3本くらい垂れ下がっている。白土さんリード。私はここでだいぶ苦戦した。残置スリングをあぶみにして登る

も、だいぶ苦勞して、斎藤さんに手伝ってもらう始末。さらに何回かテンションをかけてしまった。一ヶ月以上のブランクが効いている。やはり継続的に行かないとだめだなと思った。

滑り台みたいな大岩が登場。ダダダッと走って登るとのことだけど、行ってみるとフィックスロープが下まで垂れ下がっていた。おかげですたすた歩いて越える。それでも見た目以上に滑りやすい。



それから小さなゴルジュが続き、ざぶざぶ水に浸かっての遡行は気持ち良いことこの上ない。けれど、へつりに失敗した私は滑って、後ろにいた斎藤さんを巻き込んでドボン。すみませんでした。

石棚10+10mを左からまいて越えると、つるつるに磨かれた花崗岩のナメ・トイ状が出てきて、しばしウォータースライダーをして遊ぶ。その後も、ざぶざぶと積極的に涼しい水の感触を楽しむ。



最後の 8m 滝は途中でハーケンを打ちながらの直登。途中まではガバになっていて登りやすいけれど後半が難しかった。けれど、私はセカンドでなんとかかかとか越える。



すぐ目の前にそびえる、壊れた巨大な堰堤の間をくぐると河原っぽい雰囲気になり、ここで終了。左の踏み跡から登山道へ上がる。登山道はところどころ滑りやすい箇所があり、白土さんは転倒してしまい、捻挫してしまった。靭帯を痛めたそうで、しばらくは辛そう。

穴ノ平橋には 12 時半に到着。この時期は混雑しているかも、と思っていたけど単独者数人と会った以外には、他パーティーは居なくてスムーズに遡行できた。

真夏の水浴びを存分に楽しむことができたけど、だいぶ苦戦した滝もあって、もっと頑張らないといけないなと思わせる一日だった。二人は楽勝のようだったけど、私には十分。

お二人曰く、半日で終了してしまうので、丹沢なら日帰りの沢を 2 本組み合わせれば充実するだろう、とのことでした。

- 7 : 00 穴ノ平橋・入溪
- 9 : 00 大岩
- 11 : 00 終了点
- 12 : 30 穴ノ平橋

地形図：中川